

2024 年 サポーターズカンファレンス議事録

■実施日時：2024 年 6 月 29 日(土)14:00～15:00

■場所：鳴門・大塚スポーツパーク ソイジョイ武道館

■参加者：ファン・サポーターの皆さま 76 名

徳島ヴォルティス株式会社 代表取締役社長 岸田一宏

常務取締役 福島義史

強化本部長 黒部光昭

アカデミーダイレクター 大谷武文

岸田社長：皆さま、こんにちは。試合前の貴重なお時間にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆さまには日頃から格別なるご支援・ご声援を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りいたしまして、改めて厚く御礼申し上げます。本日の進め方ですが、事前にご質問をいただいている中で、時間の限りがございますので、件数が多かったご質問に対して、それを中心にこちらからお答えをさせていただきたいと思っております。

それでは、早速ではございますが、ご質問に対するご回答を進めさせていただきます。まず、シーズンの前半戦の総括についてお答えをさせていただきます。今シーズン序盤戦におきましては、降格圏になり、また最下位という順位に陥りまして、皆さまには多大なるご心配をおかけしましたことを、ここで改めてお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。昨シーズン残り 11 試合というところで、吉田達磨前監督に指揮を執っていただくこととしました。非常に難しいタイミング、難しい状況の中で監督を引き受けていただいた吉田前監督ですが、何とか残留という結果を作ってくれました。今シーズン、その積み上げとして、更に成熟していくところを狙いまして、吉田前監督に続投のお願いをいたしました。懸命に勝利を目指して戦っていただき、クラブとしても非常に感謝をしております。しかしながら、結果に結びつかなかったという成績不振。それを理由に監督の交代をさせていただきました。後ほど黒部から、増田監督に代わってからの詳細についてはご説明をさせていただきますが、増田監督に交代をして、チームは気持ちを切り替えました。一丸となって日々のトレーニングに励んでおります。そして、試合では勝利にこだわり戦ってくれており、何とか少しずつではありますが、良くなってきて、現状の順位まで進んできてくれているというところなんです。引き続き増田監督のもと、残りの試合を戦って次につなげていき、努力をしていかないといけないと思っております。チーム一丸となって引き続き戦ってまいります。今シーズンの今後の目標については、常に申し上げますとおり、当初に掲げた目標については、可能性のある限りそれを追いつけるという

ころです。ですが、現在の現実を見つめてみますと、今の順位、これが現実です。理想論的なことばかり言っても仕方がないですし、きれいにプレーオフ圏内に到達するということは簡単には言えないと思いますが、実際にやるとなると本当に簡単ではないと思っております。よって、まずは目の前の1試合1試合を大事に戦い、勝点を積み上げ、一つでも上の順位を狙っていくというところで進んでまいりたいと思っております。

シーズン序盤の一連の状況についてのご質問に対してお答え申し上げます。吉田前監督の解任の件については、先ほどの前半戦の総括の中でお話ししたとおりです。岡田前強化本部長の辞任、島川選手の引退、これについては、それぞれに両名とも自分の想いが固い決意のもとで、各自が辞任（解任ではなく）及び引退ということで申し出がありました。島川選手においては引退という申し出が強くありましたので、話し合いをした中ですが、決意が固かったということで受理した次第です。続いて西谷選手の契約解除、こちらにおきましては、まず契約上の問題があるというところをご理解ください。双方合意で、既にリリース等で皆さまにお知らせしている内容のとおりでございます。大変申し訳ないですが、こちらのご質問については、同じ回答になりますので、時間の限りもでございますので、繰り返しの質問についてはご容赦ください。よろしくお願いいたします。

ここで、増田監督のところについては、強化本部長の黒部から説明を申し上げます。黒部強化本部長：増田監督のところについてご説明させていただきます。吉田達磨前監督が解任という形になり、クラブとしては次の監督をどうするのかということに早急に対応しなければならませんでした。その中でクラブとして、S級ライセンスを持っている、徳島のことを今一番分かっているということも踏まえて、増田ヘッドコーチ（当時）に暫定監督という形でオファーを出しました。増田さんが暫定監督の頃から皆さまには試合を見ていただいていると思います。増田監督がチームを少しずつ変えていこうと本当に必死で戦ってくれている姿と、もちろん試合内容、結果、全てをしつかり吟味させてもらった上で、私からも社長、常務に今年戦う上で一番適任の監督は増田さんですと、ぜひこの人で戦うべきですということをお伝えさせていただき、ご了承いただいて、正式に5月5日のリリースのタイミングで増田さんにも監督を引き受けていただき、就任という形になりました。増田さんもちろんいろいろな想いがあって、監督を受けるかどうかすごく悩んでいました。ただ、やはりクラブの想い、クラブが本当に監督を必要としているということもしっかり話をさせていただいて、“それぐらいの想いをクラブが出してくれるのであれば、いろいろ想いに応えます”ということで受けていただきました。本当にクラブとしては一緒にこの1年、まずしっかりと手を組んで進んでいこうということで、今、監督をしていただいています。余談にはなりますが、もちろん暫定監督の状況のタイミングで、クラブとしては監督や、

次のこともいろいろ並行して考えていたのは事実です。それは正直言うと今もそうですし、今後もずっと考え続けています。そこはリスクマネジメントの意味で、監督がどうなるか分からない、クラブとしては何があっても大崩れしないような状況を常に作り続けることがやはり強化の仕事だと思っていますので、そこは素直に増田監督が正監督になる間もしっかり動いていましたし、今も動いています。それはいつ何時、何があるか分からないから、そういうところはしっかり動いているということだけはご了承していただきたいと思います。簡単ですが、以上になります。

岸田社長：では続いて、もう一度私から、今後のクラブ方針、こちらについてご説明をさせていただきたいと思います。

中期事業構想ですが、中長期に向けてクラブが目標達成に向けて立てている戦略です。我々の強化・アカデミーのビジョンは、満員の熱狂的なスタジアムで、2030年までにチームの3分の1以上がHG（ホームグロウン）・アカデミー出身・生え抜き・県人、これでACLに出場する。ホームページ等でも以前より掲げている目標です。後ほどレアル・ソシエダとの提携のお話を太谷からご説明させていただきますが、我々は育成型クラブというクラブの特色を出して育成に注力しております。トップチームとアカデミーのフットボールの一貫性、これを強固なものとするというところが一つ大事な戦略となっております。このたび監督の交代等もありましたので、クラブスタイル・フットボール面のクラブスタイル、この確立。以前より申し上げます、アグレッシブ・コレクティブ・個人の成長、この3つがクラブスタイルの確立として大事な要素です。皆さま、徳島がこれまで数年やってきたフットボールスタイル、こちらの方を変えるのか、変えないのか、変えたのかというところを思われる方も少なくないのではないかと思っておりますが、我々としては、以前とフットボールのスタイルは変えておりません。現状においては、変える考えはないというところです。ベースとなるスタイル、こちらについてはボールを保持する・攻撃的に試合を運ぶというところがベースのスタイルです。このベースのスタイルは変えていませんし、変えません。ただ、いつまでも同じことばかりやっていると、もちろん成長がありません。世界のフットボールのトレンド、また、ルール改正。これに応じてアップデートしていかなければならないので、ずっとボールを保持するというところで、ずっと同じことをしていても、フットボールのトレンド的についていけないというところですので、全く同じというスタイルはないと思います。もちろん監督によってはそのベースは同じで、スパイスというのは変わって来たりもします。直近で一番大きく影響したことがルール改正です。コロナ禍のルール緩和で選手交代が3人から5人になりました。以前は狙いとしたボールを握る、ボールを動かす、ボールを保持すると相手が動く、走る、足が止まるという狙いがありましたが、5人の交代枠があると5人もフレッシュな交代選手が出てくる。ですから、ボール保持に注力し過ぎると逆に効果は薄いという

ここで、やはりアレンジ、バージョンアップ、時には戦う相手によって勝つためのアレンジ、こういうものが必要になります。ですから、ずっと全く同じ・あそこ変わったのではないかというところも見受けられるとは思いますが、今ご説明させていただいたように、やはり、トレンドに応じたアップデート、勝つためのアレンジ、スパイス、この辺が必要になってきます。確かに同じベースを持って同じベースを変えずにやっていますが、少しずつ変化はあるとは思いますが。スペイン人の監督を3人招聘してボールを握ってというサッカーをしてきましたので、メディア等では徳島のスタイルはスペインサッカーというふうに言われたりもしておりますが、我々が目指すサッカーがスペインのスタイルに近いということで、スペインに限定しているということではないというところをご認識いただきたいと思います。あくまでスペインのスタイルが我々が目指すものに一番近いというのでスペインの監督を招聘したり、目指すスタイルに近いスタイルをベースにしたいというのはもちろんありますが、前回のワールドカップでスペインは苦戦をしたと思います。ですから、スペインもおそらくアップデート・アレンジ、今後はスペインのカラーも当然変化する部分が出てくると思います。我々もさらに成長するためには常に勝つためのアップデート、それに向けて日々のトレーニングに注力していくということが大事だと考えております。また、黒部から後ほど説明がありますが、残りの後半戦、何とかいい結果で進んでいけるよう、一部リリースも出ておりますが、夏の補強、ここをしっかりと整えて残りの後半戦に臨んでいきたいと思っておりますので、引き続き皆さまのご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

続きまして、後半戦に向けた取り組みを黒部から、アカデミーに関する事項を大谷からご説明させていただきます。

黒部強化本部長：ご説明させていただきます。21節終了時点、順位は11位です。7勝4分10敗、得点19失点29得失点差がマイナス10、勝点は現在25で、平均勝点が1.19となっています。

比較を分かりやすくするために、節を1節から7節、吉田達磨前監督が指揮していた時と、増田監督が指揮を執ってからで分けさせていただきます。ですので、勝点の数字というよりも平均で言えば、1試合でどれくらいの勝点がとれているのかというところ、得点も0.86から1に上がっている。失点のところは、1.86を1.23に減らすことができている。ざっくりなところを少しイメージを見ていただければと思います。

8節以降ですが、私も4月の頭に就任させていただき、本当に見て足りないという率直に感じた部分を監督・コーチとすり合わせてチームに取り入れさせていただきました。すごく分かりやすい言葉ですが、とにかくハードワークすること。1対1とか球際で

負けない。攻撃と守備、守備から攻撃の切り替えのスピード、この3つをとにかく徹底してもらいました。

それによって、今、日々起きていること、皆さまも感じているところもあると思いますが、練習場での毎日のトレーニングの強度がかなり上がってきています。それによって選手が本当に少しずつ少しずつ強くなってきて、戦える選手になってきているというのが事実です。もう一つは、システムの変更で、今いる選手たち、この補強のタイミングまでは島川選手の引退と西谷選手が離れるということになり、二人選手がいない、増田監督も自分が望んで獲得した選手もいない。その状況で、今いる選手で一番勝点を取れる可能性、一番勝てる確率を上げるということも含めて、4バックから3バックに変えるということであったり、4バックでいながら守備のところだけは5バックにするとか、対戦相手を見ながら攻撃のタイミング、守備のシステム、いろいろなことを考えながら、今、監督が戦ってくれています。もう1つ、やはり密なコミュニケーションを、選手間でダメなものはダメだとか、良いものは良いということをは話し合える状況、スタッフ間のところでも、やはりこういうことをどうしていこうという細かいことを、常に話し合える状況を以前よりも増やしていくことで、チームは前に進んで行っている状況です。

後半戦の戦い方ということで、簡単ですが、良くなっている部分、本当にこのハードワーク・球際・切り替え、この3つは確実に良くなっています。これをもう1段もう2段上げていきたい。そこは監督とも意識は同じですので、ここを常に上げていく、ベースを上げるということを特にやっていきたいです。1試合1試合を大切に、勝点を積み重ねる。そこに関しては本当に1試合1試合で、勝点0で終わるのか1で終わるのか3で終わるのか、全然違います。今日、首位の長崎相手ですので勝点を取るということは相当難しいと思っています。ただ、こういう試合で勝点を取れるのか、取れないのかというところが本当に大きく変わってきますので、この1試合、監督もスタッフも本当に時間を割いて、勝点1、そして勝点3を取るために日々努力していただいているという状況です。状況に応じて目標設定をする。分かりやすくいうと、今自分たちがどこに置かれているのか。先ほど社長からもありましたが、やはり自分たちが今いる位置がどこなのか、そこに対してどういう戦い方をしなくてはいけないのか、どういう勝点が必要なのかということをしっかりコミュニケーションを取りながら、監督とすり合わせながら、戦い方、選手の選考、いろいろなことも含めて、しっかりクラブも含めて、チームが1つになって進んでいきたいと思っています。

夏の移籍の期間についてですが、現状、一昨日リリースされましたが、岩尾憲選手が加入することになりました。やはり大きな戦力です。クラブにとってはミッドフィル

ダーとして中盤のところで、彼くらいの経験がある、力のある選手が戻ってきてくれたということは大きな力になりますし、本当に後半戦に向けていい準備といいスタートができる準備ができてきていると思います。また、今後戦力になる選手を取ります。ただ、戦力というのは名前があるだけが戦力とは思っていません。今いる選手たちはすごくリスペクトできる素晴らしい選手たちです。ですので、彼らの競争を煽ることができるような選手というイメージでも獲得しようという意図も今後考えていますので、結局いい選手が入ってくるというよりも、同じぐらい、それより少し上か下かという、チーム内での競争というところは煽れるような選手獲得も考えています。その中で、今いる選手たちが新しく入ってきた選手よりも、やはり力を出してくれるとか、上回れるような切磋琢磨できる、チーム内で1試合1試合、試合に出る選手、サブになる選手、メンバー外の選手というところを毎週競えるような状況というのをしっかり作って、チームのベースをしっかり上げていくということを考えています。ケガ人についてです。現状、田向選手と柳澤選手の2名がケガをしています。メディカルスタッフのサポートは本当に素晴らしいと思っています。去年までのことはわかりませんが、今シーズン、増田さんに監督が代わってからトレーニングの強度がめっちゃくちゃ上がっています。その中でケガ人が2人しかいないというのは本当に素晴らしいことだと思っています。これから新しい、先程申しましたが、競争がある中で、このままケガ人が少なくて競い合いながらチームのベースを上げていけるということができれば、なおチームとしての力も上がってくると思いますので、そこは強化部も含めて、トレーナーとも選手たちともコミュニケーションを取りながら、より前に進んでいけるように準備していきたいと思っています。

最後になりますが、日頃よりヴォルティスに熱い応援、本当に感謝申し上げます。スタジアムにもアウェイにも足を運んでいただき、本当に心強く思っています。今、順位は11位で、順位だけを見ると中位ですが、降格圏との勝点差は4という厳しい状況には変わりありませんので、この状況から抜け出すために、選手・スタッフ・クラブが一丸となって、今できることを全力で取り組んでいきたいと思っています。「徳島ヴォルティスをさらなる高みへ」ということで、みんなで共に闘ってほしいと思います。以上です。

大谷アカデミーダイレクター：では続いてアカデミーの方から説明させていただきます。改めまして、アカデミーでダイレクターやっています大谷と申します。よろしくお願いします。私からまずアカデミーのところで、活動理念が3点あります。選手の育成、人間形成、地域貢献というこの3本柱でやっています。1つ、世界基準というところで、今クラブが大事にしているところ、世界というところも意識しながらやっています。

今回、リアル・ソシエダとは育成で業務提携をさせていただきました。目的が3点あり、若手選手の育成プログラムの強化と指導者の向上ということで、この2点がアカデミーで大きく関わっています。

このリアル・ソシエダはもう皆さまもご存知の通り、久保建英選手が所属していて有名ですが、約60%の選手が下部組織から出ている。ここが非常に大事な点です。これはヨーロッパの五大リーグの中でも相当高い確率です。

ですので、そのノウハウをぜひ取り入れたく我々は2022年、育成の業務提携を開始させていただきました。ここからこれまでの流れで、2023年、昨年4月に短期留学、スタッフ2名、アカデミー選手の数名が向こうに行かせていただきました。国際大会にも出場させてもらっています。ホームページ等にも載っていますので、興味がある方は見てください。さらに引き続いて、昨年の9月には彼らのスタッフが実際にこちらに来ていただいて、我々指導者にいろんなメソッドであったり、トレーニングのノウハウを教えてもらっただけでなく、県協会と一緒にコラボして、指導者の講習、実技をするという機会もありました。

今年2024年では、2月、3月にまた彼らのスタッフが2名見に来ていただいて、我々の今進めているデータ登録であったり、メソッドの部分を追求しています。簡単にメソッドを説明すると、主にどんなふうにサッカーを構築していくか、トレーニングしていくかということを彼らの専門のスタッフに来てもらって、ノウハウを教えてもらっているといったところです。さらにこの4月、5月に、今年の短期留学に行かせていただきました。今後ですが、8月に今年はユースのチームがスペインに行く予定になっています。カテゴリーはU16・U17です。そして9月、10月にはまたソシエダのスタッフが来る予定になっています。以上です。

質疑応答

Q 1－1. 4月4日に西谷和希選手の双方合意のものの契約解除というお話があったかと思います。何があったかとか、そこまで聞かなくていいんですが、今後同じことがないようにしてほしい。ユニホームを買って追いかけて、ずっと僕たちもお金を使って応援させてもらっています。同じことがないようにするために、クラブとしてどういった考えを持っているのかだけ簡単に教えていただければと思います。

A 1－1. 岸田社長

ご意見ありがとうございます。皆さまのそういった想いも十分我々も理解しているつもりです。今ご指摘いただきました今後の防止策としては、二度と起こらないようにどうするのかというところですが、フロント側と、トップチーム側のコミュニケーションを密にし、チームの状況をしっかりとこれまで以上に把握しながら、コミュニケーションを大事にして、早く状況を深く理解して再発しないように努めます。ご説明が難しく、ご納得いただけないかもしれませんが。

Q 1－2. 言えないことがあると思うので、そこまで言わなくてもいいです。同じことが起きないように、サポーターみんな一生懸命応援してるつもりです。期間が長い短いあるかと思いますが、今年の事件と言ったらいけませんが、やはり足が遠のいたサポーターも私の友達にもいます。同じことが起きないようにだけ、本当にお願いしたいです。答えにくい質問申し訳なかったです。

A 1－2. 岸田社長

ありがとうございます。本当にお気持ちを十分理解しているつもりです。決して安くないユニフォームだと思いますし、いろいろとグッズもご購入いただき、たくさん応援もいただいておりますので、十分取り組んでいきたいと思っています。本当に申し訳ございませんでした。

Q 2. 私が聞きたいのは、グッズのマンネリ化ですが、今販売されている選手グッズ・マスコットグッズがいつも同じようなバラエティばかりで、写真は撮ったままの宣材写真を貼ってるやつだけとか、他クラブ J1・J2 クラブは他にもいろいろ 1,000 円ガチャだったらチェキを出したりとか、イベントに合わせて選手のハロウィングッズ・バレンタイン等々のグッズがありますが、その様なグッズを今後出していただける予定はございませんか。

A 2. 岸田社長

ありがとうございます。非常に貴重なご意見をいただいたと思います。今後のグッズ展開についてのご意見を反映し、しっかりといい企画をさせていただき、ご満足いただけるようなグッズ展開に努めてまいりたいと思います。

Q 3. グッズ売り場ですが、開幕戦とか開幕から 2、3 試合の間とか、あるいはものすごく集客頑張っていると、たくさんの方が来たときとかにものすごく混んで、そこに並ぶだけで疲れ切ってしまう状態になります。昔はバックスタンドのところにもグッズ売り場があったりとかしたことがあるんですが、そういう日だけでもいいので、ちょっと分散させるような手だてもしていただきと思います。以上です。

A 3. 岸田社長

貴重なご意見ありがとうございます。しっかり検討させていただき進めてまいりたいと思います。

福島常務取締役

少しご説明をさせていただけたらと思います。ご意見ありがとうございます。いただいたご意見で、何とか改善しようとはしているところがあり少しお話をさせていただきます。キャッシュレス端末を本年導入いたしました。開幕戦の比較で言いますと、昨年の大分戦の開幕で会計数 771 名だったのが、今年はその数字をしっかり分析し約 1000 名の会計数となっています。これは小さな取り組みかもしれませんが、このような形で商品の陳列をどう変えるかとかキャッシュレス端末の導入、キャッシュレスの分析の中で、現金の方が今約 51%、キャッシュレスでご購入いただいている方が 49%で、ちょっとずつキャッシュレスのご利用の方も増えてきているという状況です。そちらに関しても、会計数がもう少し増えていくのかなと思うので、そちらの方も引き続き挑戦して、確認していきながら進めていきたいと思います。1 分あたりの会計時間を分析し、約 0.9 人だったところが 3.2 人で、1 分あたりでの購入の速さというのもしっかりと確認しました。多い場合は端末の台数を増やしています。根本的にどのように改善していくか考えてはいますが、結構費用がかかるとかすぐにできないこととかがどうしてもあるので、その方向に進みながら考えていきたいと思っています。バックスタンドに関しては、しっかり検討して、やらせていただければと思います。以上です。

Q 4. 一昨日の岩尾憲選手の復帰は今年一番のニュースでしたし、こんな嬉しいことないと思います。ありがとうございます。それとあと 1 点聞きたいのは、渡井理己選手の動向は今後どうなるのでしょうか。よろしくお願いします。

A 4. 黒部強化本部長

説明できる、今現時点で話せる範囲でということにはなりますが、渡井選手に関してはまだうちの契約期間が残っています。ボアヴィスタとの契約は6月30日の時点で切れるということで、ここからクラブが契約を持っている中で、彼がまずどうしたいのか、クラブとしてもどう思っているのか、いろいろなことのすり合わせの中で、最終的に双方で合意をしたタイミングでどういうふうになるかという決断になる中で、現時点ではどうなりそう、どうなるということをはっきりと伝えることができません。今、現時点ではクラブの想いもありますし、彼の想いもありますし、いろいろなことを含めた上で交渉しているという段階ですので、クラブとしてはまだ契約があるということだけは事実ですので、その中で彼の気持ちも尊重し、クラブの想いも含めて、最終的にどのような形で合意してもらえるかという状況で、現在交渉中ということで進んでいるのは事実です。簡単ですが、以上です。

Q 5. ファンサービスについてですが、ホームページとかを見るとサインとかをもらうときに、サインだけみたいな感じで書かれているんですけど、多分短くしたいからなのかもしれないんですけど、ファンとの交流っていう形ならば、ちょっとそれだけあれば多分メルカリで売られたりするかもしれないとか、そういうのがあったりするかもしれないし、逆に個人名とかそういうのも書いてもらうとか、そういうのをホームページに書いて、ファンとの交流とかそういう感じでファンサービスという形でやってもらうのがいいのかなとは思ったりしています。ぜひご検討をお願いします。

A 5. 岸田社長

ご意見ありがとうございます。ファン・サポーターの方あってのクラブであったり選手であったりしますので、少しでも喜んでいただける、満足いただける対応をしたいと思います。検討させていただきます。

Q 6. 現状、2年連続降格の危機となるような状態になっていますが、やはりその辺J2優勝したこともあるようなチームが、春のゴタゴタもあって、選手から見たら、徳島行きたいなあみたいな感じのチームになってないような気がします。僕は初年度から応援させてもらってますが、3年連続最下位とかいう時期もありました。今は毎年最低でも昇格争いをしなくてはいけない立場だと思います。それが現状、2年連続降格の危機にさらされて、春夏に慌てて補強という感じ。去年も監督交代とかいろいろありましたが、2年連続こういう状態になったことに関しての原因や対策は何か追求されていますか。

A 6. 岸田社長

ありがとうございます。今おっしゃっていただいたとおり、クラブ規模で言っても、

今シーズンでもJ2ではだいたい5・6番目、収入がそれぐらいですので、チーム編成費用としてもそれぐらいの位置にいます。選手も十分戦える、技術のあるレベルの選手を獲得できている、揃っていると思っています。じゃあ、なぜ結果が出ないのか。非常に難しいところで、少しの歯車であったり、少しの考え方、表現の違いであったり、当然、昨年も今年も監督交代ということになっているので、監督も必死でそれぞれ勝つために努力をしてくれているのも事実ですが、そこがフットボールの難しさであり、様々な要素がありますが、クラブにおいては何が悪かったか何が悪いのか何が足りなかったのかという反省は、分析も含めてしております。皆さまのご期待にお応えしたい、お応えしなければならないという気持ちがあります。やはりこういうプロのスポーツの世界ですので、結果も問われます。結果が出るようにするのは非常に難しいことですので、どういう手を打てば劇的に変わるのかというところが逆に明確にあれば、手は打ちますが、そういった繊細な部分の集合体のようなところもありますので、しっかりとどうすれば良くなるのかというところは、分析、判断しながらいいチーム作りをいきたいと思っています。前半戦を見てきて、今総括をしましたが、少し足りない部分がありますが、夏の補強をしっかり整えて、残りのシーズンを戦っていききたいと思っています。

Q 7. 先ほど、2030年にACLを目指すという中長期の目標が出たと思いますが、まずスタジアムのことです。いつまでも陸上トラックがある、屋根がないスタジアム、強風に左右されるようなスタジアムで、これままホームスタジアムとしてやっていくのがいいのかということです。先ほど、徳島県のサッカー協会さんとも、いわゆる徳島県との協力体制というのがあるということが分かりましたが、他のクラブチームとかはやはり自治体と協力しながら、クラブの方から専用スタジアムを作りたい、専用スタジアムが欲しいと声を上げています。もちろん専用スタジアムを作ることによって、県外から徳島のサッカーが見やすいということでお客さんが増えるかもしれませんし、サポーターのストレスがもっと減ると思います。選手も戦いやすくなると思います。自治体にクラブからスタジアムを要望する、または協力体制を作っていくということを少しずつでも進めていくべきではないでしょうか。このままずっと雨に濡れて屋根がない、強風に左右されるようなスタジアムで戦い続けるというのがベストか。そこをクラブとしても発信をしていただければと思っています。お願いになります。よろしくお願いします。

A 7. 岸田社長

貴重なご意見ありがとうございます。専用スタジアムも、非常に私としても理想であり、スタジアムのクオリティが上がればおっしゃっていただいたようにフットボールであったり応援のクオリティも上がり、来ていただく皆さまのご来場のしやすさであ

ったり環境が良くなるということは十分私もそう思います。非常にハードルが高いことですので、そこへ向けておっしゃっていただいたように、何もしないのではなくて、よく考えて、クラブから発信したり、お願いできるように、検討して頑張っていきたいと思います。

Q 8. メディアへの発表のあり方に関してです。西谷選手のゴタゴタがあった時に、なぜ出られないのかということを知ったのが、公式からの発表ではなく、徳島新聞の発表で知ったというのが事実です。あと、解任の時にメディアでおかしく 10 分解任とかいろいろ書かれて、SNS とかでいろいろ荒れるような状況になってしまいました。いろいろ言えること、言えないことはあると思いますが、ある程度クラブが主導権を持って発信をしていれば、ある程度抑えられたのではないかなと思っているところで、今後、ゴタゴタはあまり見たくはないので、こういうことがあった時のメディア等の発信の方法に関してどうお考えになっているのかを聞かせていただきたいと思っています。

A 8. 岸田社長

ありがとうございます。クラブとしても、適切なタイミング、一番はそういった良くない事象を先ほどもご指摘いただいたように、発生させないことが一番だと思います。一般的なリリースというか、メディアに取り上げていただく事象でのお話ですが、適正なタイミングというのはあると思います。メディアからの要望というかタイミングもあったりもします。あと、良いことであっても、悪いことであっても双方合意という言葉のように合意がないと発信できないというようなこともあります。あと、他クラブが絡むこと、他クラブと日時をすり合わせるような移籍等があったりすると、いつに合わせて足並み揃えてという他クラブの要望も聞かないといけないという調整もあります。おっしゃっていただいた通り、できるだけタイムリーに発信できるのが好ましいことだと思いますので、今後いただいた貴重なご意見をしっかりと参考にさせていただき、できる限りそのように進められるよう努力していきたいと思っています。

Q 9. 新エンブレムに変わり、青と緑のやつと白と緑で青背景があると思います。後者の方が露出の数が多いと思いますが、DAZN とかを見ると背景黒で白と緑になっていて、徳島を知らない人が見たら何色のチームなんだってなると思いました。そういうことへの対策を検討されるのであればお願いしたいと思います。

A 9. 福島常務取締役

ご意見ありがとうございます。エンブレムに関してのマニュアルの作成はしており、基本的には背景によって変えていくということ、黒になる場合は全部白というところ

を徹底していますが、一部そういう形でマニュアルに沿えていないケースもあると思いますので、そちらの方は調整していきながら、また修正を依頼したいと思います。やはりブランディングのイメージなので、マニュアルに沿って進めたいというところがありますが、そういうのが出てきてしまっている状況があるので、出てこないように働きかけたいと思います。ご意見ありがとうございました。

岸田社長：皆さま、貴重なご意見、また我々のご説明をご清聴いただき誠にありがとうございました。皆さまのクラブへ対するフットボールの魅力、また結果等の気持ちは十分理解をしております。私も勝ちたいです。J1に行きたいです。その努力はしているつもりですが、なかなか皆さまのご期待にお応えできていないのが現状です。皆さまのご期待にお応えできるよう、まずはここから残りの17戦を必死で追いかけて1つでも上へ、とにかく上がっていけるように努力をして、チーム・クラブ一丸となって戦っていきたいと思います。引き続き皆さま応援をよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。